

# 非常時を考える

万が一の事態で当社製品がお役に立つこと  
どのような場面で使用していただけるかを考えました

〔H30.5 版〕

東日本大震災以降、万が一の時に障がいを持つ子供たちをどう守るか？ 避難所での生活ができるのか？ などの問題意識が高まり、防災に対してのご相談を数多く頂くようになりました。

万が一の事態に、当社製品がどのように皆様のお役に立てるのか？ をご提案させていただきます。

## とにかく逃げる！



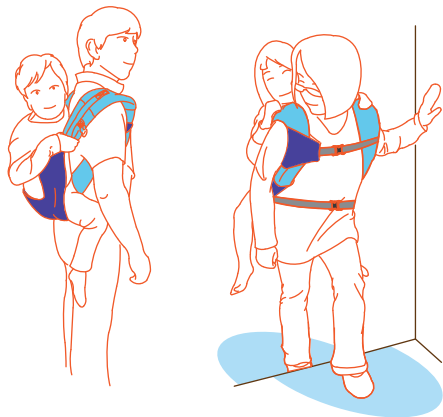
緊急避難



『日常で使い慣れている物しか非常時には使えないのよ！』と、展示会でお会いしたお母さんに教えて頂きました。ユニキャリは、日常生活の中で手軽にお使いいただけるよう、簡単な動作で使えます。

緊急時の緊張した雰囲気の中では、日ごろから使い慣れている物でなければ使いこなせません。また、使い慣れた道具は、お子さんにとっても安心です。さまざまな場面で使用する事で快適に、そして活動の範囲がさらに広がることを願っております。

## 手を貸してもらおう



### 『長い距離の移動はおんぶが一番！』

ユニキャリは、専用のおんぶパーツを取り付けることで、小さなお子さんから大きなお子さんまでご使用いただけます。

特に、大きいお子さんの場合は、おんぶが一番楽な移動手段です。

両手が使えるので、他の子の手を引いたり、荷物を持ったり出来るので好評です。

※首がすわっていないお子さんをおんぶされる場合は、頸部を支える工夫が必要です。

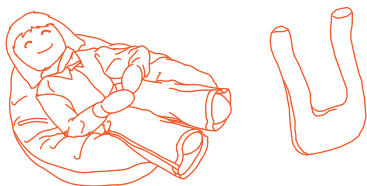
例：ぼよクッションやバスタオルを使用 (Dr. 並びにセラピストの方にご相談ください)

避難場所までの道に階段や狭い場所があっても、移動に困りません。

長い階段の登り降りも、手すりがかめるので安心して移動できます。

※自力座りができないお子さんを一人でおんぶするのは難しいです。緊急時の場合はまず横抱きで非難してから安全な場所で周囲の人に手伝ってもらっておんぶされることをおすすめします。

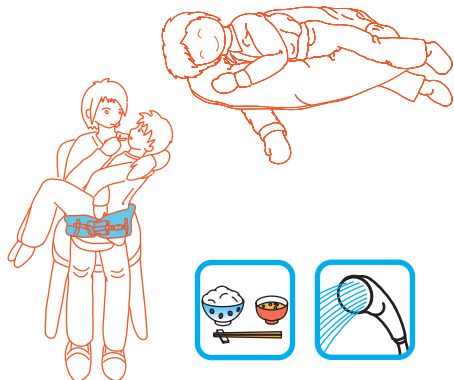
## 快適に過ごす



### 『日常で使っているモノが、避難場所でも役に立ちます』

避難場所では毛布などは準備されますが、障がいのある子供達にはそれだけではとても大変です。そんな時も、日常で使っている（軽い・持ち運びが簡単）邪魔にならない（コンパクト・かさばらない）物があればとても重宝します。

- ・ユニキャリ 移動だけでなく、食事介助・入浴介助にも使えます。
- ・Uクッション さまざまな臥位姿勢をとることができて便利です
- ・ミラクヘルマット 体育館の床の上でも快適にすごせます
- ・ぼよクッションうさぎ 臥位や座位の手軽な補助用具です
- ・クロスYベルト 折りたたみ椅子などが、座位保持具として使えます (自立座位が可能な場合)



なれない環境で身体的なストレスだけでも軽減できれば、精神的にもリラックスできます。体の痛みや蒸れ、心地悪さを大幅に減らすことができます。軽いものであれば、避難所へ運ぶのも容易にできます。

